

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
1	人口動態・合計特殊出生率について	「所得の低い未婚女性」について、ひとり親か否かなど、より多くの情報がないと施策につながらないのではないか。	④参考にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度より、EBPM(証拠に基づく政策立案)の推進のためのアドバイザー制度を設けるなど、政策の立案及び検証において統計データを活用するための取組を進めており、施策に影響を及ぼす指標、数値について検討する。</li> <li>・ひとり親家庭の就労支援については、ひとり親家庭の就労支援を行う母子家庭等自立支援センターを県総合庁舎にて運営し、職業紹介のほかに独自の求人開拓を行って就職に繋げている。</li> </ul>	□ (参考)
2	人口動態・合計特殊出生率について	若年女性の転出抑制ではなく、転入など移動の活発化こそ重要である。外部の人が持ち込む価値観を大切にすべきではないか。	①実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入など移動の活発化に関しては、本市への移住促進のためH29年度より浜松移住センターを開設し、移住コーディネーターを配置している。特に中山間地域への移住に力を入れており、中山間地域の集落機能の維持活性化のため、H25年度より地域おこし協力隊制度を活用した「浜松山里いきいき応援隊」制度を実施している。中山間地域に都市部から若者を移住(転入)させ、外部の人が持つ価値観で地域の良さを発見することで、地域住民が地域の良さを再認識し、地域の活性化に繋げている。</li> <li>・また、首都圏等において新卒者や転職者向け合同企業説明会の開催や市内企業と新卒や転職者をマッチングするアドバイザーをH30年度より首都圏等に派遣するなど、UIJターン就職支援事業を実施し転入促進を行っている。</li> </ul>	○ (継続実施)
3	人口動態・合計特殊出生率について	男性は仕事、女性は家という価値観などの仕組みが大きく変わる中で追いついていない面がある。こうした点を踏まえ、教育が大切ではないか。	①実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市では、男女共同参画の意識づくりのため、学校をはじめPTA、自治会、職場等で自主的に開催する学習会に講師を派遣している。また、小中学校を対象に「性別による固定的性別役割分担意識」に焦点をあてた進路選択における啓発事業として、地域に根付いて活動している市民団体へ出前授業を委託している。この他に、就職を控えた学生を対象にキャリアデザインを描く講座をH27年度より委託にて実施。将来設計をする中で、女性の継続就業や男性が家事や育児にかかわっていくことを啓発している。</li> <li>・各学校においては、学校教育全体を通して、人権の尊重、男女平等、相互理解・協力についての指導をしている。また、家庭科教育において、学習指導要領に基づき、家庭のあり方や家族の人間関係等に関する指導をしている。</li> </ul>	○ (継続実施)
4	人口動態・合計特殊出生率について	学童保育が委託制になるが、新宿区のようにサービスを受ける側の市民の声業者選定の過程で反映できる仕組みを検討してみてもどうか。	④参考にする	<p>放課後児童会の委託内容の検討には、利用者ニーズの把握と反映が必要であると考えている。事業者の選定にあたっての利用者ニーズの反映方法については、保護者参加による事業者選定も一つの手法として検討を進めていく。</p>	□ (参考)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
5	人口動態・合計特殊出生率について	経済的な理由による子育ての不安から、結婚を躊躇する若年男性が多くいる。	②一部実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の保育料の段階的無償化に基づき、市民税非課税世帯や年収360万円未満相当の世帯については軽減を行っている。(保育施設や市立幼稚園等の保育料は、保護者の収入状況による応能負担となっている。)</li> <li>・子ども医療費助成：中学生3年生までの子どもが入・通院した場合の、保険診療に係る一部負担金から入院は1日500円、通院は1回500円の自己負担額を控除した額の助成している。</li> <li>・児童手当支給事業：次代の社会を担う児童の成長と発達に資することを目的として、中学校修了前の児童を養育する者に対する児童手当を支給している。</li> <li>・経済的な理由の軽減を目的とするものではないが、平成28年度から婚活イベントや婚活電話相談などを実施し、結婚を望みながら叶わない男女が、婚活や結婚に対し前向きになれるよう支援している。</li> </ul>	○ (継続実施)
6	人口動態・合計特殊出生率について	女性の地位や所得が向上することで、女性が自立し、シングルマザーが増える傾向がある。シングルマザーに対する支援を検討してみてもどうか。	①実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり親家庭の自立促進と生活の安定を図るため、母子家庭等就業・自立支援事業や日常生活支援事業など実施している。</li> <li>・児童扶養手当：18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある児童を持つひとり親家庭等に対する児童扶養手当の支給を行っている。</li> <li>・ひとり親家庭等自立支援手当支給事業(市単独)：児童扶養手当支給事由該当後3年以内で、かつ2人以上の児童を養育する児童扶養手当受給者に対するひとり親家庭等自立支援手当等の支給を行っている。</li> <li>・国の保育料の段階的無償化に基づき、市民税非課税世帯・年収360万円未満相当のひとり親世帯に対する保育料の無償化もしくは軽減を実施している。また、本市独自の施策として、婚姻歴のないひとり親家庭の保育料を軽減する寡婦(夫)控除のみなし適用を行っている。</li> </ul>	○ (継続実施)
7	人口動態・合計特殊出生率について	20歳から24歳までの転出抑制は難しいが、子どもの頃に浜松で暮らす良さを伝えることにより、浜松市外に転出しても、浜松の良さを実感し将来的に戻ってきてもらえる。	①実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校では、夢と希望を持ち続ける子供を育成するため、学校、保護者、地域が一体となって地域や子供たちの実態に応じた特色ある活動を実施している。また、実体験により地域の良さを知り、郷土愛を醸成する活動や、起業家教育を通して、やらまいか精神を醸成する活動を実施し、「浜松の良さ・強み」を感得し、将来、自分らしさを発揮しながら、浜松を支え、活躍する人材となることを目指している。</li> <li>・市長が市内高校を訪問し、市政への関心を高め、一人でも多くの若者に浜松へ戻ってきてもらうために「浜松の良さ」や「浜松の誇り」を直接高校生に伝える講演会を開催している。</li> </ul>	○ (継続実施)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
8	人口動態・合計特殊出生率について	地域に希望する仕事がないと、就職する際に地域の外に出て行く傾向があるので、人と企業をマッチングすることが大事である。	①実施中	市内大学生等を対象にH29年度よりインターンシップフェアを開催し、本格的な就職活動前に学生等と企業のマッチングの場を設けている。また、ハローワーク浜松と共同で就職面接会を開催し、人と企業のマッチングの場を創出している。	○ (継続実施)
9	人口動態・合計特殊出生率について	要因分析は、定量的分析に加え、アンケート等の定性的な分析をすることも一考だ。静岡経済研究所が実施した「県内大学生の就職に関するアンケート・ヒアリング調査」では、県内学生・県外学生が、県内企業・県外企業に就職する動機等についてパーソナル要因も含め、分析しているので、参考にしてみてもどうか。	④参考にする	平成28年3月に「浜松市UIターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査」を実施し、その中で大学生を対象としたアンケート調査等を行い、施策に反映をさせている。静岡経済研究所の「県内大学生の就職に関するアンケート・ヒアリング調査」についても、今後の本市施策の参考とする。	□ (参考)
10	人口動態・合計特殊出生率について	Uターンや転出抑制は、性別問わずに取り組むべきである。	①実施中	H30年度より大学等への進学前の高校生を対象に、市内企業の魅力を伝えるイベントを開催したり、市内企業約2,000社の企業情報等を発信する浜松就職・転職ナビ JOBはま！をH29年度より運営するなど、性別問わずUターン就職を促進している。	○ (継続実施)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
11	人口動態・合計特殊出生率について	女性は社会的つながりを求めて働くケースも多い。企業もせっかく育てた戦力を結婚で退職されたら打撃であり、そうしたことから働く事情に合わせた働き方を受け入れる会社も多い。こうした魅力的な企業であってもPR方法に工夫がないと、魅力が伝わらない。	①実施中	H28年度より実施しているワーク・ライフ・バランスや女性活躍を推進している事業所の認証事業において、事業所が取り組む「従業員が子育てと仕事を両立しやすい環境づくり」を評価の1つとしている。認証された事業所の取組は、広く市民や他の企業に知っていただくために市のホームページで紹介をしている。また、事業所に対しては、市が定める認証マークの使用や建設工事の入札における総合評価落札方式の評価項目での加点などの特典を用意している。	○ (継続実施)
12	人口動態・合計特殊出生率について	企業がフルタイムや時短で働いている人を支援することで、女性の継続的な雇用につながる。	①実施中	ワーク・ライフ・バランスや女性活躍を推進している事業所の認証事業において、事業所が取り組む「従業員が子育てと仕事を両立しやすい環境づくり」を評価の1つとしている。認証された事業所の取組は、広く市民や他の企業に知っていただくために市のホームページで紹介をしている。また、事業所に対しては、市が定める認証マークの使用や建設工事の入札における総合評価落札方式の評価項目での加点などの特典を用意している。	○ (継続実施)
13	人口動態・合計特殊出生率について	女性が働き続けるためには、親、夫、その他家族のサポートが重要である。また、近所でのつながりができるようになると子供を育てやすい環境になるのではないかと。	①実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子育て支援拠点事業(H22～)：身近な地域における子育て支援ひろばを開催することで、そこに参加している方の仲間づくり、子育て体験談の共有、居場所、子育て支援に関する様々な情報共有の場となっている。H30.4子育て支援ひろば24か所</li> <li>・幼稚園での一時預かりや保育所等での延長保育など、子供を育てやすい環境づくりに努めている。</li> <li>・全市民向けに、市全般の子育て支援策について、子育てガイドブック配付や公式サイト「ぴっぴ」にて周知している。</li> </ul>	○ (継続実施)
14	人口動態・合計特殊出生率について	企業誘致こそ人口増につながる。そのためにも土地利用規制は見直すべきである。	①実施中	平成23年12月に指定された未来創造「新・ものづくり」特区により、市街化調整区域内の工場立地誘導地区に重点エリアを設定し、農地関連法、都市計画法上の土地利用規制について緩和している。	○ (継続実施)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
15	人口動態・合計特殊出生率について	子育て支援体制の施策について多様な場でPRすることが、浜松で生活する上での不安を取り除くことになる。	②一部実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全市民向けに、市全般の子育て支援策については、子育てガイドブック配付や公式サイト「ぴっぴ」にて周知している。</li> <li>・市民との対面サービスでは、母子健康手帳配付時をはじめ、赤ちゃん訪問時等あらゆる場面で子育て支援サービスについて情報提供している。</li> <li>・子育て支援に携わる方に対しては、随時研修会を開催し、タイムリーな情報提供を行っている。</li> <li>・出前講座のメニューとして、浜松市の子育て施策に関するものを用意し、要望に応じ講座を実施できる体制を整えている。</li> </ul>	○ (継続実施)
16	人口動態・合計特殊出生率について	第1児出生を支援するよりも第2児、第3児を増やすことが合計特殊出生率の向上に有効である。第3児以降の出生に対する祝い金、教育無償化、保育園や放課後保育の優先確保等を検討してみてはどうか。	②一部実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国制度に基づき、保育施設や市立幼稚園等の保育料の多子世帯軽減を実施し、第2子はおおむね半額、第3子以降は無償としている。また、年収360万円未満相当の世帯についてはさらに軽減を行っている。</li> <li>・保育施設の入所における本市独自の施策として、在園児の下の子の優先入園制度を実施している。</li> <li>・放課後児童会の入会選考では、毎年度、該当児童の学年や保護者、祖父母の状況などを基に、児童に対する放課後児童会の必要性を点数化して判定している。入会要件を満たす児童全ての受入が可能となるよう、今後も定員拡大に努めていく。</li> </ul>	○ (継続実施) ※放課後児童会については参考
17	人口動態・合計特殊出生率について	津波対策のような官民が協力した出生応援のための基金を作ってはどうか。	④参考にする	結婚支援、不妊治療・不育症治療に対する助成、妊婦・産婦健診をはじめでのパパママレッスン、産後ケア・保育施設等の拡充など、切れ目ない支援を幅広く実施している。施策・事業の実施に要する財源には、活用できる国や県の補助金等はもちろん、市の一般財源を充てている。御意見は今後の参考とする。	□ (参考)
18	浜松バレーについて	大企業からベンチャー企業への人材の流動性を高めるために、チャレンジに失敗した場合の支援や生活保障等があるとよい。「投資の視点」も大切であり、社会に貢献していこうという起業家精神を持った人たちに対して、市や有力企業が応援するようなマーケティングのようなことができるのではないのか。	②一部実施中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市として、失敗したときの生活保障等は考えておらず、現行制度(雇用保険など)内で対応するものとする。</li> <li>・人材の流動性を高めるものとして企業における副業の推奨が考えられるが、これについては、政府が「副業・兼業の推進に関するガイドライン(案)」を公表し、また政府でも副業解禁に向けて動き始めたところである。</li> <li>・CSR活動を行っている企業の応援については、起業家カフェを利用して創業した企業がCSR活動を行い、かつ、当該企業のHPにその旨を掲載している場合、当カフェのHPに当該企業のHPをリンクしていることで、当該CSR活動を紹介している。</li> </ul>	○ (継続実施)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
19	浜松バレーについて	浜松市で、ベンチャー企業に対する寄付金控除のような制度があるといい。	④参考にする	経済産業省がベンチャー企業への投資を促進するために、ベンチャー企業に対して投資を行った個人投資家等に対し所得税を優遇する「エンジェル税制」を実施している。	□ (参考)
20	浜松バレーについて	地元で育ったベンチャー企業がM&A(企業買収)されると、都市部に移ってしまうため、地元の企業がM&Aすることも必要ではないか。	①実施中	浜松地域イノベーション推進機構を通じて、本市の大手メーカーのニーズとベンチャー企業を結び付けるマッチング会をH26年度より実施している。また、市内の大手メーカーが独自に、ベンチャー企業のアクセラレーションプログラムを実施している。	○ (継続実施)
21	浜松バレーについて	浜松は面白い土地だと思わせることが必要。自動運転、下水道PFI、ドローン等の先進的な取り組みをPRしていくと、新しい取り組みに関心がある人が集まる素地ができていくのではないか。	①実施中	・H29年度より「ベンチャー企業集積促進情報発信事業」を実施し、本市のベンチャー企業に関する情報を、ウェブメディアを通じて、市外企業をターゲットに、効果的に発信をしている。 ・下水道PFIについては、本市HPにて情報発信を行っており、全国的にも注目されている。	○ (継続実施)
22	浜松バレーについて	浜松ホトニクスが副業を認めているように、他企業も副業を推奨したらどうか。	④参考にする	政府が「副業・兼業の推進に関するガイドライン骨子(案)」を公表し、また政府でも副業解禁に向けて動き始めたところである。法令や制度上において、議論の余地があることから、国の動向を注視する。	□ (参考)
23	浜松バレーについて	会社を辞めてから、ベンチャー企業を起こすという気運を醸成してはどうか。	①実施中	浜松商工会議所、浜松地域イノベーション推進機構とともに、H29年5月に「日本一の起業家応援都市」を宣言し、市内における起業熱を高めるとともに、本市の思いを全国に向けてPRした。今後、宣言を体現するため、3者で着実に創業支援に取り組んでいく。	○ (継続実施)
24	浜松バレーについて	ベンチャー企業として、ものづくり企業のみを対象と考えるのではなく、文化芸術の分野もベンチャー企業の対象として考えていただきたい。	①実施中	H28年度に「浜松ベンチャー連合」を立ち上げ、年に2回、意見交換会を行っている。現在、ものづくりやIT関連の企業が多いが、サービスや農業に関わる企業も参画している。文化芸術の分野のベンチャー企業の参画も可能である。	○ (継続実施)

平成29年度第2回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	施策への反映
25	浜松バレーについて	ベンチャー企業の成長には、ネットワークとマッチングが重要である。	①実施中	・ネットワークについては、H28年度に「浜松ベンチャー連合」を組織し、年2回意見交換会を開催しており、その場にて多くのベンチャー企業が交流を持てる機会を提供している。 ・マッチングについては、浜松地域イノベーション推進機構や市内の大学には、ニーズと技術を結び付けるコーディネータが配置されており、当該業務を担っている。	○ (継続実施)
26	浜松バレーについて	浜松バレーを推進する包括的な機構や組織があるといい。	④参考にする	福岡市では、ベンチャー支援のための外郭組織がある。本市においても必要が生じれば検討したい。	□ (参考)
27	浜松バレーについて	アメリカの「エンジェル投資家」のようなハイリスクであっても若い事業家の夢に投資するファンドの活用があると、他の地域と差別化が図られる。	③検討する	現在、ファンドを活用して起業家が資金調達をし易くなるような制度の創設に向けて準備を行っている。	□ (参考)
28	浜松バレーについて	ベンチャーが人材確保しやすい支援があるといい。	①実施中	「IT人材育成・獲得支援事業」により、ITスキルを身につけた人材が、ベンチャー企業に就業する仕組みをH29年度から構築している。	○ (継続実施)